

研修医通信 vol.20 発行日2012年2月28日

こんにちは。鈴鹿中央病院の南 結です。2週間という短い間でしたがお世話になりました。短い期間の中でも、紀和・尾呂志診療所の見学や訪問診療の付き添い、そして私が産婦人科志望ということで大石産婦人科の見学をさせて頂いたり、ここでしかできない経験をたくさんさせて頂きました。その中で私が感動したことは、病院スタッフの方々の挨拶・笑顔の多さです。初対面の方が、すれ違った際に必ず笑顔で挨拶して下さるので、その度に心が温かくなり、挨拶の大切さを再認識しました。患者さんも皆さん診察するたびに「ありがとう」と・・・。地域の温かい人間性に触れた2週間でした。上級医の先生方も非常に熱心で、「研修医を育てよう」という熱意をひしひしと感じ、もっと長期間の研修プログラムにすればよかったかなと少し後悔したくらいです。今度は数年後に産婦人科で戻ってくるかもしれませんが、その時もどうぞ宜しくお願い致します。本当にありがとうございます。

鈴鹿中央病院 南 結

僕が紀南病院での研修を終えてから約1ヶ月が経ちました。普段研修している病院に戻っても、紀南でのさまざまな経験や出会った諸先生方、そして一緒に研修した研修医仲間たちとの思い出は、つい昨日のように思い返されます。同じ三重県にありながら、伊勢とは異なる風土・環境・人々・医療情勢に驚く点もありましたが、紀南では医療従事者と患者さんとの距離がより近く、言いたいことをお互いに言えるような環境で、先生方も説明を納得いくまでされており、「こころのかよう」医療が行われていると感じました。また、地域でも標準医療が提供できるよう日々勉強されたり、できる範囲で病院システムの改革などを実施されており、とても働き甲斐のある病院だと思います。困ったり悩んだりしたときにはともに話し合った研修医仲間とは、休日にも食事に行ったりと楽しく研修させて頂きました。書きたいことはまだまだありますが、研修を終えて確実に言えることは『働きたくなる病院』であったことです。いずれ、紀南の地で働くことを楽しみにしています。

山田赤十字病院 研修医 塩谷 拓也



始めまして。三重大学研修医2年目の濱口宣子です。

出身は鈴鹿市で、大学は愛知県なのですが、去年から研修で三重県に戻ってきています。紀南は子供のころに家族旅行で来たきりで、ほぼ初めての場所になります。

地域医療ってどんななんだろう？

そんな思いで1月から紀南病院での研修が始まりました。

自分は外科で研修させて頂いて、3階中央病棟、手術室、透視室をふらふら徘徊しながら研修しています。

この1ヶ月間で学んだこと、感じたことはたくさんありますが、一番印象に残っていることは、「医師・看護師だけでなく病院全体が、患者さんの退院後のよりよい生活に向けてみんなで応援している」だと思います!!

今までとはまるで違った医療の在り方に、地域を強く感じる事ができました。

研修期間は折り返し地点に差し掛かっているものの、まだまだ不慣れな事ばかりですが、残りの1ヶ月間も実りあるように頑張ろうと思っています。

三重大学 濱口 宣子



紀南へ来てから、2か月が過ぎようとしています。荒坂診療所、尾呂志診療所などでの研修はとても勉強になりました。同時に、紀南病院での生活が日常になりつつあります。これは、地域での生活が、自分の人生の中に組み込まれてきたということだと思います。後で振り返って、郷愁や懐かしさを感じながら、この研修期間を省みるだろうと思います。故郷は遠くにありて思うもの、出会いと別れは、人生のつきものと言います。一つ一つの機会を大切に、生きていく上での礎を築いていけたらと思います。 東大病院 岡田浩平



おひさしぶりです！研修医の前田千尋です。

紀南病院から東大病院にもどってまだ1カ月もたっていないのですが、とても懐かしく紀南病院のことを思い出します。ただただ忙しく、毎日を振り返るころの余裕もなく日々が過ぎていきますが、ふと思出す熊野灘の朝日やキレイな星空、那智の滝などに何かほっところ安らぐものを感じます。東大を抜け出して、あの海を眺めに行きたいな～なんて思ったりしています。

こちらに帰ってきてたった1ヶ月ですが、本当に貴重な、大切な1カ月を過ごせたのだということ再認識しております。かけがえない1カ月を過ごさせて頂き本当にありがとうございます。あたたかい紀南のみなさんに会えて本当に良かったです！！またいつかみなさんに会えることを、心より楽しみにしております。 東大病院 前田千尋

